



令和2年2月27日

福生市 定例記者会見資料

資料 3-2

～AI（人工知能）で30言語に対応～ 多言語 AI チャットボット等による行政サービス案内 の実証実験を行います

福生市は、市制施行 50 周年記念事業として、外国人住民にもわかりやすい行政サービス案内による利便性の向上等を目指して、令和 2 年度から多言語 AI チャットボット等に関する実証実験を行います。

■事業目的

福生市は全人口に占める外国人の居住割合が 6%超と多摩地域で最も高く、約 60 か国の国籍・地域の外国人住民が生活しており、「言葉の壁」により、行政サービスを知る機会やそれらの案内が不十分ではないかと考えられます。

また、AI・IoT の社会実装の取組が全国的に始まっているため、多言語 AI チャットボット等を活用した、日本人はもちろん、外国人にもわかりやすい行政サービス案内と、AI の分析に基づく新たな施策の立案を目指して、福生市では初めての实証実験を行います。

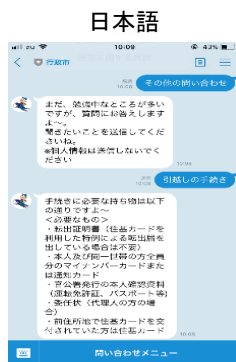
■事業内容

①多言語対応の AI チャットボットおよび AI スピーカーを開発・運用

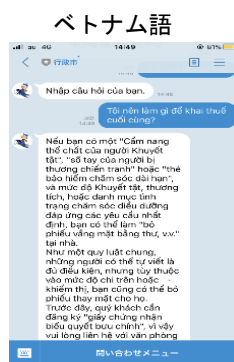
→「住民登録・証明分野」と「地域活動・交流分野」の 2 分野でサービス案内を実施

②ログデータ等を AI が分析、機能改善や新たな施策を提案

→潜在的ニーズを把握し、EBPM（証拠に基づく政策立案）に活用



AI チャットボットのイメージ



！ あなたの街でも AI スピーカーを活用しませんか？



AI スピーカーのイメージ

■事業期間等

【事業期間】令和 2 年度～令和 3 年度の 2 か年

【事業費】合計 36,056 千円※東京都補助事業「地域版第 4 次産業革命推進プロジェクト」を活用

【問合せ】行政管理課 ☎042-551-1580